



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3278 号 2016.9.26 発行

老人ホームで児童預かり 県、ひとり親家庭支援へモデル事業



大分合同新聞 2016年9月26日
特別養護老人ホーム鈴鳴荘で夜を過ごすひとり親家庭の児童(右)。ボランティアに勉強を教わった=国東市

ひとり親家庭の小学生を老人ホームなどの社会福祉施設で預かり、食事させたり、勉強を教えたりする県のモデル事業が9月、国東、中津両市で始まった。放課後児童クラブが開いていない時間帯・休日をカバーし、児童の居場所づくりと保護者の子育て支援を同時に目指す。県は10月スタートする日田市を加えた

3施設で来年度末まで実施し、有効性を調べる。

県内の父子・母子家庭は8704世帯(2010年国勢調査)。県子ども・家庭支援課によると、休みなく働く親が多い。児童クラブが閉じた後、帰宅するまでの時間帯や、土、日曜に子どもを預けられる場所があれば助かるといった声があるという。

居場所づくりは国の施策だが、社会福祉施設の活用は県独自の試み。24時間・年中無休で職員が常駐する環境などに着目した。

原則、平日午後6時ごろ～同9時、日曜午前8時～午後8時の週2日、見守りや食事、学習支援のサービスを提供する。利用は無料で、1食150円の実費が必要。

特別養護老人ホーム鈴鳴(れいめい)荘(国東市)では初回の20日、地元の小学1～3年生5人の他、園児1人が特別参加。児童クラブへ迎えに来た車に乗り、施設で利用者のお年寄りと一緒に夕食を食べた。ボランティアの教職員OBらに算数の宿題などを見てもらった。

当面は火、金曜日に預かる。高橋とし子施設長(61)は「目的を持って過ごさせ、自信になる何かをつくってあげたい」と話した。

兄妹を預けたフィリピン出身の30代女性は午後6時に仕事を終え、急いで児童クラブに駆けつける毎日。「買い物に行き、宿題を見ながら食事を作り、風呂に入れ、寝かせると遅くなる。栄養バランスの取れたご飯が出て、私の苦手な漢字も教えてくれてありがたい」と話していた。

中津市ではいずみの園かきせサポートセンターでスタートし、日田市では障害者支援施設の県日田はぎの園で10月から始まる予定。県母子寡婦福祉連合会に事業委託してコーディネーター1人を配置する。問い合わせは連合会(TEL097・552・3313)へ。

<メモ> 厚生労働省の全国母子世帯等調査(2011年度)によると、母子家庭の母親の就業率は80・6%。就業者のうち、パート・アルバイトなどは47・4%で正規の39・4%を上回る。末子の年齢が上がるにつれ正規が増加し、パート・アルバイトなどが減少する傾向もみられる。

「障害者の権利」をテーマに 10月「きょうされん」全国大会 熊本市 水俣病、ハン

セン病から学ぶ【熊本県】

西日本新聞 2016年09月26日

障害者の共同作業所などをつくる全国団体「きょうされん」の全国大会が10月22、23両日、熊本市の県立劇場などで開かれる。熊本地震のため見送りが検討されたが「災害時こそ障害者の権利を守らなければいけない」と、開催を決めた。水俣病公式確認60年、らい予防法廃止20年の節目も踏まえ、胎児性水俣病患者やハンセン病元患者も登壇。実行委員会は25日、熊本市に集まり、日程や運営面の最終確認をした。

大会は全国40支部の持ち回りで開かれ、九州では2010年の福岡市以来3回目。「障害者権利条約をこの国の文化に」をテーマに、水俣病やハンセン病を巡り、命と人権を軽視された歴史を通して差別や障壁のない社会の実現を目指す。

22日は午後1時から、第2次世界大戦中のドイツで障害者が虐殺されていた事実を掘り起こしたきょうされんの藤井克徳専務理事が「憲法公布70年の今年、わたしたちが進むべき道とは」と題し基調報告。「熊本から伝えるプログラム」として、胎児性水俣病患者の金子雄二さん(61)や菊池恵楓園入所者自治会の志村康会長(83)たちの半生から、国策によって踏みにじられた人権を考え、今後の展望について理解を深めるシンポジウムもある。

午後4時から、県立劇場と熊本学園大の計16会場で分科会を実施。各事業所が支援活動などの取り組みを紹介するほか、障害者との交流会、水俣病患者やハンセン病元患者との対話を通して「平和」を考える討論会もある。23日も午前9時から各分科会を開く。

副実行委員長を務める山下順子きょうされん熊本支部長は「4月の地震では全国から多くの温かい支援をいただいた。感謝を伝える大会にもしたい」と話している。実行委事務局＝096(342)4951。

秋晴れの下、会話弾む 米子市福祉のつどいウォーク 日本海新聞 2016年9月26日

障害のある人と市民ボランティアと一緒に歩く「米子市福祉のつどいー1000人ウォーク」(鳥取県米子市ボランティア協議会など主催)が25日、同市東山町のどらドラパーク米子市民体育館周辺であり、参加者たちは秋晴れの下、ウォーキングと会話を楽しみながら交流を深めた。



ウォーキングで交流する参加者たち。手をつないで歩く姿も目立った＝25日、米子市東山町

同ウォークは毎年開かれ、今年で21回目。障害者と市民ボランティアが交流を深め、災害など緊急時に障害者の避難誘導で円滑に連携できるようにする狙いもある。今回、運営担当を含め総勢360人が参加した。

同協議会の辻聡会長と野坂康夫市長の激励を受けた後、「エイ、エイ、オー！」と気合を入れ、鼓笛隊の先導で出発。作業所などグループごとにまとまって体育館周辺の約1.5キロを歩いた。障害者とボランティアが手をつないで歩く姿があちこちにあった。

就労を目指して「米子ワークホーム」で訓練に励む安田祐輔さん(28)は「初めて会うボランティアの人と楽しく話げできた。参加して本当によかった」と話した。

歩いた後、参加者は体育館でフォークダンスや福引ゲームを楽しんだ。

一方、ボランティアたちは運営、ウォーキング参加に役割分担して活躍。辻会長(56)は「誰かのために何かをするというボランティア意識は以前に比べて随分浸透し、特別なことではなくなってきた」と話した。(門永隆一)

混合グループ熱戦 健常者、障害者スポーツ楽しむ 「ユニファイド・アクト」

佐賀新聞 2016年09月26日

障害者、健常者ともにスポーツを一緒に楽しむ「ユニファイド・アクト」が24日、佐賀市の市立体育館と佐賀大学附属特別支援学校で初めて開かれた。ゴルフボールの代わりに円盤状のフライングディスクを用いる「ディスクゴルフ」で、約120人が親睦を深めた。

知的障害者のスポーツ参加活動を支援する「スペシャルオリンピックス日本・佐賀」が主催。藤川謙二会長は「活動を通して明るく楽しい社会づくりになれば」と話し、山口祥義知事も駆け付け「県民全員が自然に参加できるスポーツだ。大きな大会にしていければ」とあいさつした。

円盤状のフライングディスクを投げ、投数を競う参加者たち＝佐賀市の市立体育館

競技では、障害者と健常者で5人ほどの混合グループを結成。バスケット型の専用ゴールに向かって1人ずつディスクを投げ入れ、何投でゴールに入れるかを競い合った。参加者同士で「ナイススロー」と拍手や声掛けし、交流を深めていた。

運営スタッフに西九州大学の学生や障害を持つ子どもの家族が参加。監事の中島博道さん(65)は「たくさんの方の支援があって開催できた。イベントを通して障害への理解やスペシャルオリンピックスを知ってもらえれば」と話した。



障害者ら風船バレーで交流

声を掛け合いながらプレーする選手＝長崎市油木町、県立総合体育館

直径40センチの風船を使ったバレーボールで障害者らが交流する「ふうせんバレーボールふれあいINながさき」(長崎ふうせんバレーボール振興委主催)が25日、長崎市内であり、会場は熱気と歓声に包まれた。

障害に対する理解を深めようと毎年開催し24回目。県内外の8歳から85歳までの障害者とボランティアで編成した28チーム約330人が参加した。風船をチーム全員(1チーム6人)が触れ、10回以内に相手チームに返すのがルールで、車椅子でも楽しむことができる。

試合では、車椅子に乗る人もボランティアのサポートを受けながら風船をつなぎ、得点を上げるたびに全員でハイタッチをするなどして楽しんでいった。大阪府から参加し、ふうせんバレー歴13年の野田啓介さん(39)は「助け合いながらみんなで楽しめるのが良い」と話していた。

長崎新聞 2016年9月26日



障害者スポーツ 体験を

読売新聞 2016年09月26日

◆来月フェス パラ県3選手参加

2020年の東京パラリンピックや21年に県内で開催される第21回全国障害者スポーツ大会の開催に向けた機運の醸成を目的として、県は10月2日に「県障がい者スポーツフェスティバル」を津市一身田大古曾の県身体障害者総合福祉センターで開催する。リオデジャネイロ・パラリンピックに出場した県内出身の3選手も参加する予定だ。

参加するのは、車いすテニス男子ダブルスで銅メダルを獲得した斎田悟司選手(44)(四日市市出身)、陸上女子100メートルと走り幅跳びで入賞した前川楓選手(18)(津市出身)、水泳男子200メートル自由形に出場した坂倉航季選手(19)(同)。県はリオ大

会での活躍をたたえ、3選手に県スポーツ栄誉大賞などを贈る方針だ。

フェスティバルでは、3選手らによるパネルディスカッションが行われるほか、車いすテニスやボッチャなどの障害者スポーツ体験、競技用車いすの試乗や義足の歩行体験などもある。斎田選手と県内選手によるテニスの試合も行われる予定という。フェスティバルは午前10時～午後3時で、参加無料。当日参加が可能だが、人数把握のために事前申し込みを呼びかけている。申し込みは総合福祉センターのホームページから用紙を入手して必要事項を記載し、同センター障がい者スポーツ推進課へファクス(059・231・0801)かメール(sport@mie-reha.jp)で送る。問い合わせは同課(059・231・0800)。

障害者アート紹介 支援学校生らの作品も 静岡 静岡新聞 2016年9月26日



障害者による芸術作品や活動などを展示する「グランシップWonderfulアート」=静岡市駿河区

障害者による芸術作品や活動などを展示する「グランシップWonderfulアート」(県文化財団、県主催)が10月2日まで、静岡市駿河区のグランシップで開かれている。

県内29校の特別支援学校の生徒・児童の作品を展示する「ウィズハート展」には、友人の顔を描いた絵画や書、立体造形作品など約200点が並ぶ。

今回初めて、障害者の芸術活動を支援するNPO法人スローレーベル(横浜市)の活動を展示した。音楽と身体を使ったパフォーマンス「スロームーブメント」に用いられる、音を奏でる電動アシスト車いす「&Y(アンディ)01」(ヤマハとヤマハ発動機の共同開発)や、パフォーマンスの動画などが紹介されている。

10月2日には、同団体によるワークショップやトークイベントも開かれる。参加者募集。問い合わせはグランシップチケットセンター<電054(289)9000>へ。

手話の魅力 劇や歌で 読売新聞 2016年09月26日

◇倉吉でパフォーマンス甲子園

◇熊本聾学校V 県勢4校入賞逃す

手話への理解と普及を図ろうと、第3回大会が25日、倉吉市駄経寺町の倉吉未来中心で開かれた「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」。予選を突破した20チームの生徒らが、手話を交えた歌やダンス、演劇などを披露。会場を訪れた秋篠宮家の次女佳子さまを始め、約1500人の来場者からは、各チームに大きな拍手が送られた。(古賀愛子)

各チーム8分間の持ち時間の中で演技し、手話の正確性と分かりやすさや、演出が審査された。優勝には、4月に発生した熊本地震の経験を基に、災害に負けない勇気や家族との絆などを表現した熊本聾学校(熊本)が輝いた。

県内からは、3年連続出場の鳥取聾学校と境港総合技術高、2度目の鳥取城北高、初出場の米子高の計4校が出場。いずれも入賞を逃したが、練習の成果を発揮し、晴れ晴れとした表情を浮かべた。

米子高は、保育士を目指す3年生らが、童話「赤ずきん」の劇を披露した。手話は、授業で五十音を学ぶ程度だったが、「せっかく学ぶのだから、みんなの前で披露しよう」と出場を決意。子どもへの読み聞かせにも使える赤ずきんを題材に選び、6月から練習に励んだ。3年田中幸喜さん(17)は初出場ながら選手宣誓の大役を務め、「保育士になっても、手話を使って障害のある子どもや保護者ともコミュニケーションをとりたい」と満足そうだった。

鳥取聾学校からは、2年浜津志織さん(17)が一人で出場し、「鳥取や手話に興味をも

ってほしい」と、因幡の白うさぎ神話の劇と伝統の傘踊りを披露。「手話が『みんなの前で表現する』ということをも可能にしてくれた。ありがとうという気持ちでいっぱい」と笑顔を見せていた。

境港総合技術高は、福祉科で学ぶ生徒らが、ろう者の講師や発達障害の子どもたちとの交流から感じた、障害者への理解や命の大切さを歌とダンスで表現。鳥取城北高ボランティア部の生徒らは、相手を笑顔にできる手話の魅力を、忍者に扮し、コントで表現した。

◇年々レベルアップ

大会を終え、演出家で俳優の庄崎隆志・審査員長は「それぞれのチームに個性があり、エネルギーが伝わってきた上、年々レベルが上がっている」と講評。「大会に高校生が集うことが、手話の魅力やろう者の世界を知る人が増えるきっかけになれば」と話していた。

台風被災の福祉施設 7割が浸水想定区域外 避難計画策定に遅れ

北海道新聞 2016年9月26日

8月後半から道内を襲った一連の台風や大雨で浸水した道内18の高齢者や障害者らの福祉施設のうち、7割の13施設が水防法に基づく浸水想定区域外だったことが25日、北海道新聞の調べで分かった。浸水想定区域に指定されていなくても、現実には浸水被害の恐れがあることがあらためて浮き彫りになった。専門家は区域指定の有無にかかわらず対策を講じる必要性があると訴えている。

水防法では、河川管理者が指定した浸水想定区域に基づき、区域内の高齢者や障害者の利用施設、保育所、医療機関などの福祉施設に、洪水を想定した避難計画の策定を努力義務として求めている。一連の台風で床上、床下浸水した福祉施設は8市町18施設。このうち区域内は4市町5施設で、区域外は7市町13施設だった。河川管理者の道は「想定外の雨量で、川から離れた場所でも低い土地などで浸水があった」（維持管理防災課）と説明する。

一方、浸水想定区域内でも洪水に備えた避難計画づくりは遅れている。道内で人口の多い主要10市に区域内の福祉施設数と洪水を想定した避難計画の策定状況を聞いたところ、策定状況を把握しているのは4市で策定率は30%にとどまった。

一連の台風で床上・床下浸水の被害を受けた福祉施設 ()内は施設数

| | |
|---------|--|
| 浸水想定区域内 | 北見市(1)、上富良野町(1)、足寄町(1)、音更町(2) |
| 区域外 | 南富良野町(7)、上富良野町(1)、美瑛町(1)、北見市(1)、網走市(1)、足寄町(1)、赤平市(1) |

主要10市の浸水想定区域内の福祉施設数と洪水を想定した避難計画の策定状況

| | 施設数 | 策定済み施設数 |
|-----|----------|---------|
| 札幌 | 105 | 3 |
| 旭川 | 154 | 17 |
| 函館 | 把握していない※ | 把握していない |
| 釧路 | 71 | 70*** |
| 苫小牧 | 把握していない | 把握していない |
| 帯広 | 151 | 把握していない |
| 小樽 | 把握していない | 把握していない |
| 北見 | 48 | 把握していない |
| 江別 | 24 | 15 |
| 室蘭 | 5 | 把握していない |

※ 函館は高齢者・障害者施設のみ24施設と把握
 *** 釧路は津波を想定した避難計画の策定数

行く末案じ、眠れぬ日々 相模原殺傷2カ月

共同通信 2016年9月26日

相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で19人が刺殺され27人が負傷した事件は、26日で発生から2カ月。末田清明さん(77)の息子は刃物で首を刺され、重傷を負った。妻と娘は既に他界。「私がいなくなったら、息子はどうやって生きていけばいいのか」。行く末を案じ、眠れない日々が続いている。

息子の健さん(41)は重度の知的障害があり、話すことができない。手を洗うことが大好きで、水道代が1万円を超えることもあった。蛇口から流れる水が光に反射してきらきらと輝く様子をずっと眺めていた。

相模原市内の自宅には、健さんの姉も含め4人で暮らしていた。しかし姉は米国に留学。清明さんは仕事が忙しく、妻も健さんにかかりっきりで、家族と一緒に過ごす時間は次第

になくなった。

8年前、留学中の姉が37歳でがんに倒れた。看病で米国と日本を行き来していた妻も8カ月後、後を追うように肺炎で亡くなった。自らも糖尿病が悪化して入退院を繰り返すようになり、健さんをやまゆり園に入所させることを決意した。

だが7月26日未明、事件は起きた。健さんは退院して神奈川県厚木市の施設に移ったが、今も元気がなく、落ち込んでいるように見える。清明さんは「入所させなければ、こんな目に遭わなかったかもしれない」と自分を責めたこともあった。

事件後、部屋を整理していたら偶然、妻の日記を見つけた。「今日も健の世話を頑張った」「健の誕生日。ケーキを買った」。家族で過ごした日々がよみがえった。妻は亡くなる直前まで健さんのことを気に掛けていた。

清明さんは週1回、電車を乗り継いで、健さんの元へ会いに行く。自らの体調も優れず、将来への不安は大きい。顔を見るだけで安心する。「息子には私しかない。一緒にいられる時間を大切にしたい」

論説：【増える児童虐待】疑ったら「189」に 福島民報 2016年9月26日

児童虐待の増加は本県も例外ではない。県内の児童相談所（児相）が平成27年度に対応した事案は529件で、前年度比で135件増えた。過去10年間で最も多い。県民や警察の問題意識が高まり、通告件数が増えた面もあるようだ。

通告という単語の響きに多少、抵抗があるが、「子育てに手を貸して」と親に代わって連絡することだ。周囲に気付かれず、おびえたままの子どもはまだいる。見て見ぬふりをしないのは言うまでもなく、予防に力を注ぐことが大切だ。保護者が不適切な振る舞いに陥りやすい要因を数多く抱えていないか。妊娠期から関係機関が連携を図れるような仕組みが求められる。

体に傷を負わせるのはもちろん、育児を放棄するネグレクトも虐待だ。暴言を吐いたり、脅したりするのは心理的虐待と言う。子どもの前で配偶者や親族に暴力を振るう「面前DV（ドメスティックバイオレンス）」も含まれる。

27年度、全国の児相の相談件数は初めて10万件を超えた。県内では心理的虐待が全体の約半数を占め、「面前DV」を警察が児相に通告するケースが増えた。今年1～6月で警察は既に238人の子どもを通告している。5月、いわき市内の小学4年生の男児の顔に、やけどを負わせたなどの疑いで父親が逮捕された。警察に通報したのは学校だった。学校、保育園などは、教員や保育士が虐待に理解を深める研修に一層取り組むよう望む。

虐待は要因が複雑に絡み合っ起る。地域での孤立や夫婦の不仲、経済的な不安、養育力の低下などが挙げられる。医療機関や市町村が行う妊婦健診や乳児健診は、要因を持つ家庭と直接接することができる機会だ。福島市は育児経験者らが乳児のいる全戸を訪問する。伊達市は家事や育児を手伝う子育てヘルパーを派遣している。こうした事業も予防になる。親子が危険な状態に至らないよう早めに対策を取ってあげられる。

国も対策に乗り出す。5月に成立した改正児童福祉法と改正児童虐待防止法は児相の体制や権限を強めた。ベテラン児童福祉司や弁護士の配置を義務付け、強制的に家庭に立ち入る手続きの簡略化も盛り込んだ。厚生労働省は児相の専門職を増やす方針だ。

虐待を疑ったら全国共通ダイヤル「189（いちはやく）」を利用できる。24時間対応で、最寄りの児相につながる。県内の一部市町村では専用ダイヤルを持つ。子どもの心の傷を思えば人任せにはできない。（多田勢子）

社説：望まない妊娠 生まれる子を守りたい 毎日新聞 2016年9月26日

みんなに祝福されて生まれてくる子供ばかりではない。

父親がわからずに妊娠する少女、貧困や暴力がからんだ不慮の妊娠をする女性がいる。

最も助けが必要なのに、周囲の人が気づかず、市区町村に妊娠届も出さないため、何も支援がないことが多い。

妊娠した女性の健康はもちろんだが、生まれてくる子も心配だ。

厚生労働省によると、無理心中以外の虐待で亡くなった18歳未満の子供は2003～14年度で計626人。このうち半数近くが0歳児で、実の母親が加害者である場合がほとんどだ。妊娠期からフォローしていれば虐待の恐れが高いことがわかるケースが多いと見られている。

このため、厚労省は産科のある医療機関や助産所などに児童福祉司を配置し、「望まない妊娠」をした女性の支援を始める。貧困や家庭内暴力の被害にあった女性を支援するNPOや母子生活支援施設にも児童福祉司を常駐させる。来年度にモデル事業として計10自治体に委託する予定という。

また、妊娠期から子育て期にわたるまで切れ目のない支援を提供する「子育て世代包括支援センター」は現在296市区町村に設置されている。来年度はさらに150市町村に設置し、産前産後のサポートや産後ケア事業を実施するという。

寝る場所や食べ物がなく、インターネットのサイトで援助してくれる男性を求める「神待ち少女」、性風俗しか居場所を見つけれない「最貧困女子」など若い女性を取り巻く状況は深刻だ。「望まない妊娠」のリスクは高まっている。同省の取り組みはもの足りないが、これまで手が届かなかったところへ公的支援を広げる意義は小さくない。

課題は、児童相談所など関係機関との連携である。

産んだ女性が育てられなければ、児童相談所を通して里親や養子縁組などの受け皿を見つけることが必要だ。ところが、虐待対応の急増で疲弊し、里親にまで十分に手が回らない児童相談所も多い。専門的な知識や実務のスキルが必要なのに、相変わらず専門外の部署から職員を異動させて回している自治体もある。

児童福祉法の改正で、社会的な養護が必要な子供は施設よりも「家庭的な環境」で育てることが原則となった。乳幼児期は特に手厚い子育てが必要だが、里親の成り手や養子縁組を望む人はまだ少ない。

母子ばかりでなく、父親である男性のことも含めて「望まない妊娠」の背景にある社会問題にも目を向けなければならないだろう。

ただ、どんな事情があっても、生まれてくる子供は守りたい。

社説：里親制度 普及へ担い手支援拡充したい 読売新聞 2016年09月26日

虐待などで親と暮らせない子供のために、安心できる温かい成育環境を確保するには、里親制度の普及促進が大切だ。

親が養育できない場合は、里親などによる家庭養育を優先する。5月に成立した改正児童福祉法には、そう明記された。里親支援は、新たに児童相談所の業務と位置付けられた。施設頼みの施策を転換した意義は大きい。

親が養育できず、保護を要する子供は4万6000人に上る。大半は、児童養護施設や乳児院などの施設で暮らすのが現状だ。

集団生活では、一人一人へのきめ細かな対応に限界があり、管理的になりやすい。自尊心や社会性を育むための基盤となる特定の大人との愛着形成も困難だ。

虐待による保護が増え、傷ついた子供にしっかりと向き合える養育環境の重要性は増している。

政府は、保護を要する子供の3割を里親に託す目標を掲げる。しかし、里親への委託率は、数人を預かるホーム型も含めて16.5%にとどまる。この10年で倍増したものの、目標にはほど遠い。

先進諸国では、里親などの家庭的な環境での養育が一般的だ。施設に偏った日本の現状は特異で、国際的にも批判が強い。

